

# NOBUYA ABE 1913-1971: Insatiable Quest beyond

# Borders

# 阿部展也

# あくなき越境者



昭和12年10月、  
『妖精の距離』  
現る。  
許画集『妖精の距離』より(驛牛の彫像)

2018.  
6/23 sat-  
8/26 sun



新潟市美術館  
Niigata City Art Museum

休館日 | 月曜日(ただし、7月16日、8月13日は開館) 7月17日【火】は休館 開館時間 | 9:30 ~ 18:00 (観覧券の販売は17:30まで)  
観覧料 | 一般1000(800)円、大学生・高校生800(600)円、中学生以下無料  
\*( )内は前売・団体(20名以上)およびリピーター割引料金 \*前売は一般のみ \*障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方および一部の介助者は無料(受付まで提示ください)  
前売場所 | 新潟市美術館、新潟市新津美術館、新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、hickory03travelers、シネ・ウインド、インフォメーションセンター えん、セブンイレブン(セブンチケット)主催 | 新潟市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会 共催 | BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟協賛 | ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜 助成 | 芸術文化振興基金 後援 | 五泉市教育委員会



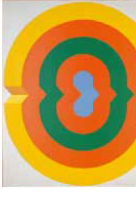
その生き様は、まさに「あくなき越境者」と呼ばるべきものであったといえます。本展は、新潟市美術館の所蔵品を核として、全国各地の美術館や個人の所蔵作品、新出の資料、関連作家の作品で展示構成します。

され、従軍先のフィリピンでは厳しいサバイバルも経験。そして戦後、画壇に復帰した後は、シュルレアリスムからアンフォルメル、幾何学的抽象へと、目まぐるしく画風を変化させていきます。この変化の大きさは、阿部展という画家の全体像の捉え難さに通じる要因でもあります。しかし、巧みな英語力を買われ、国際的な文化交流の最前線に立つ機会も多かつた彼は、世界の新しい美術の潮流にいち早く接し、それらを貪欲に吸収するだけでなく、日本へ紹介する役割も担ったのです。

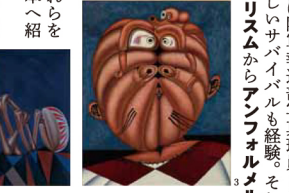


新潟県五泉市出身の阿部展也あべのぶや1937年。瀧口修造との共作詩画集『妖怪の距離』（1937年）で一躍注目され、画家としての本格的な活動が始まりました。また、彼は雑誌『フォトタイムス』を主な舞台とする、戦前の前衛写真の運動でも旺盛な発表を行い、日本の写真史においても注目すべき足跡を残しました。

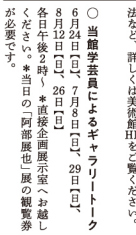
刻の研究者も、様々な顔をあわせ持ち、58歳でローマにて客死するまで、世界を所狭しと駆け回った阿部展也。その生き様は、まさに「あくなき越境者」と呼ばるべきものであったといえます。本展は、新潟市美術館の所蔵品を核として、全国各地の美術館や個人の所蔵作品、新出の資料、関連作家の作品で展示構成します。



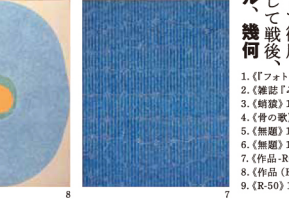
画家、写真家、評論家、中世墓石彫刻の研究者も、様々な顔をあわせ持ち、58歳でローマにて客死するまで、世界を所狭しと駆け回った阿部展也。その生き様は、まさに「あくなき越境者」と呼ばるべきものであったといえます。本展は、新潟市美術館の所蔵品を核として、全国各地の美術館や個人の所蔵作品、新出の資料、関連作家の作品で展示構成します。



戦中は陸軍報道部写真班員として徴用され、従軍先のフィリピンでは厳しいサバイバルも経験。そして戦後、画壇に復帰した後は、シュルレアリスムからアンフォルメル、幾何学的抽象へと、目まぐるしく画風を変化させていきます。この変化の大きさは、阿部展也という画家の全体像の捉え難さに通じる要因でもあります。しかし、巧みな英語力を買われ、国際的な文化交流の最前線に立つ機会も多かつた彼は、世界の新しい美術の潮流にいち早く接し、それらを貪欲に吸収するだけでなく、日本へ紹介する役割も担ったのです。



画家、写真家、評論家、中世墓石彫刻の研究者も、様々な顔をあわせ持ち、58歳でローマにて客死するまで、世界を所狭しと駆け回った阿部展也。その生き様は、まさに「あくなき越境者」と呼ばるべきものであったといえます。本展は、新潟市美術館の所蔵品を核として、全国各地の美術館や個人の所蔵作品、新出の資料、関連作家の作品で展示構成します。



1. 『フォトタイムス』15巻6号表紙掲載写真) 1938年 新潟市美術館
2. 『雑誌「みちる」』表紙原画) 1943年 愛知県美術館
3. 『蛸殻』1949年 新潟市美術館
4. 『歌の夜』1950年 国立国際美術館
5. 『無題』1956年 神奈川県立近代美術館
6. 『無題』1959年 新潟市美術館
7. 『作品-ROMA』1963年 広島市現代美術館
8. 『作品 (ECHO GREEN)』1964年 BSN新潟放送
9. 『R-50』1970年 神奈川県立近代美術館

【同時開催の展覧会】  
 ◆コレクション展1  
 「まる、はじまりのかたち」～7月29日【日】  
 ◆コレクション展II  
 「LANDSCAPE 水土の作家×NCAMコレクション」  
 8月7日【火】～12月2日【日】  
 ○コレクション展ギャラリートーク  
 6月23日【土】、7月28日【土】、8月25日【土】 各日午後2時～  
 ＊直接着席展示室へお越しください。＊当日の観覧券が必要です。  
 ○ふれあい美術館ガイド  
 美術館協力ボランティアによるご案内と解説  
 6月24日【日】、7月22日【日】、8月19日【日】  
 各日午前11時～  
 ＊エンランスキーへお越しください。＊当日の観覧券が必要です。  
 【新潟市新美術館の展覧会】TEL: 0250-25-1300  
 のぼの原画展 6月2日【土】～8月19日【日】

【交通のご案内】  
 ○バスで(新潟県近代ロバスターミナルから)  
 A: [観光循環バス・朱鷺マッセ先回りまたは白山公園先回り]  
 乗車約30分→バス停「新潟市美術館入口」下車→徒歩約3分  
 ＊1日14便運行  
 B: [C6八千代橋線] 乗車約16分→バス停「西掘通八番町」下車→徒歩約5分  
 C: [B1萬代橋ライン (BRT) など] 乗車約10分→バス停「古町」  
 下車→徒歩約12分(約800m) ＊最も便が多いです ＊「古町」から[C6八千代橋線]または[C5西掘通線]入浴営業所行きに乗り継ぎもできます  
 ○タクシーで 新潟県万代口から約10分  
 ○自動車道(無料駐車場46台)  
 A: [自動車道] 日本海東北自動車道、新潟亀田ICを降り、御都大橋経由で約20分  
 B: [国道5号線 (新潟バイパス)] 兼作山ICを降り、御都大橋経由で約15分  
 ＊お車でお越しの場合「新潟市西掘地下駐車場」をご利用の方は、60分無料券をお渡ししています。

◆ 関連事業 ◆  
 ○講演会  
 「なぜ阿部展也は日本近代美術史上かくも重要な存在なのか」  
 講師：大谷省吾(東京国立近代美術館美術課長) 日時：7月15日【日】午後2時～(90分程度)  
 会場：新潟市美術館講堂  
 参加無料(事前申込不要)先着80名  
 ○美術講座  
 日本写真史の一系譜 阿部展也・大辻清司・牛腸茂雄  
 講師：松沢寿重(新潟市美術館主幹/学芸員) 日時：7月21日【土】午後2時～(90分程度)  
 会場：新潟市美術館講堂  
 参加無料(事前申込不要)先着80名



新潟市美術館 Niigata City Art Museum